

全身的要因が歯周組織を破壊する

歯周病は口腔内細菌の塊であるプラークが原因で発症する疾患で、1980年代には特異的プラークが関係していることが明らかにされて以来、歯周病と各種原因菌との関係が探究されている。しかしながら口腔内特に、歯周ポケット内に特定の原因菌が存在しても、それだけでは歯周病の発症には不十分で、そのメカニズムも依然として不明な点が多い。近年、歯周病が全身の健康に悪影響を及ぼしているという現象に対して数多くのエビデンスが紹介されている。最初、疾病として発現した疾患は、その症状の増悪と共にII型糖尿病、心疾患、脳血管疾患、肺炎、関節リュウマチ、腎臓病などの全身疾患を引き起こすことが提唱されている。また病原細菌だけではなく宿主由来や生活習慣病などのリスクによって宿主は反応し、歯周組織が破壊されてくるとも考えられている。このようなリスクファクターには遺伝的要因、年齢などの不随意的なものから、随意的に防げることができる(Preventive biologic risk factor)糖尿病・高血圧・高脂血症・肥満、さらには生活習慣に関わるBehavioral risk factorとしての不規則な食事、運動不足、喫煙などが挙げられる。今回はこのような歯周病に関連するリスクファクターの中で、全身に関わる分野に関して考察していきたい。

藤川謙次